

**7587**

JASDAQ

**株式会社 PALTEK**

2013年12月期第3四半期決算および事業説明会「4Kが拓く未来」フォローアップ

株式会社 PALTEK(以下、PALTEK)による 2013 年 12 月期第 3 四半期(以下、3Q)の決算発表、ならびに昨年 12 月 4 日に開催された事業説明会「4K が拓く未来」を受け、PALTEK 代表取締役社長の矢吹尚秀氏に取材を行いましたので、その概要をご案内いたします。

**2013 年 12 月期第 3 四半期 連結決算概要**

マクロ経済環境は次第に改善しつつある。安倍政権の大型金融緩和に続き、円安と株価上昇が消費者マインドと消費回復を後押ししている。公共事業関連需要も堅調で、輸出は円安と米国経済の回復の恩恵を受けている。電子・電気業界ではスマートフォンの急速な普及と、スマートフォンおよび携帯情報端末の需要拡大に伴う通信インフラ向け投資が行われたこと、さらに 2012 年のエコカー減税終了後の需要調整が一巡し自動車関連需要が回復したことが市場を後押しした。しかし、3Q は国内消費の回復ペースの勢いに先細り感が出ており、米国向けの輸出は堅調だが、一部の新興国では景気が鈍化する恐れがある。

2013 年 12 月期 3Q の決算概要を【表 1】に示した。9ヶ月累計の連結売上高は、通信インフラ向け、医療機器、さらに産業機器に牽引され、前年同期比で 26%の増収となった。売上総利益が改善したのは、主に仕入値引ドル建て債権の評価改善による原価の低下、主力事業である半導体事業の売上増、さらに利益率の高いデザインサービス(設計受託)事業の比率が伸びたことによるものである。2012 年 12 月期下期に実施したコスト削減策により、販売管理費が低下した(詳細は、【表 2】をご参照ください)。これらすべてが、営業利益率を大きく押し上げた。売上高と利益ともに会社の修正予想を上回って推移したため、PALTEK は、2013 年 12 月期の通期業績予想について 3 度目の修正を行うとともに、期末配当金の予想を引き上げた。修正業績予想については、のちほど詳しく検討する。

**●【表 1】 2013 年 12 月期第 3 四半期累計 連結決算概要**

連結 (百万円)	12/12月期 3Q累計 実績		13/12月期 3Q累計 実績		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	9866	100.0%	12,453	100.0%	2587	26.2%
売上総利益	1590	16.1%	2,333	18.7%	743	46.7%
販管費	1833	18.6%	1,739	14.0%	△ 94	-5.1%
営業利益	△ 243	-2.5%	594	4.8%	837	-
経常利益	△ 143	-1.5%	568	4.6%	712	-
四半期純利益	△ 103	-1.1%	326	2.6%	430	-
1株当たり四半期純利益(円)	△ 9.08	-	28.58	-	37.66	-

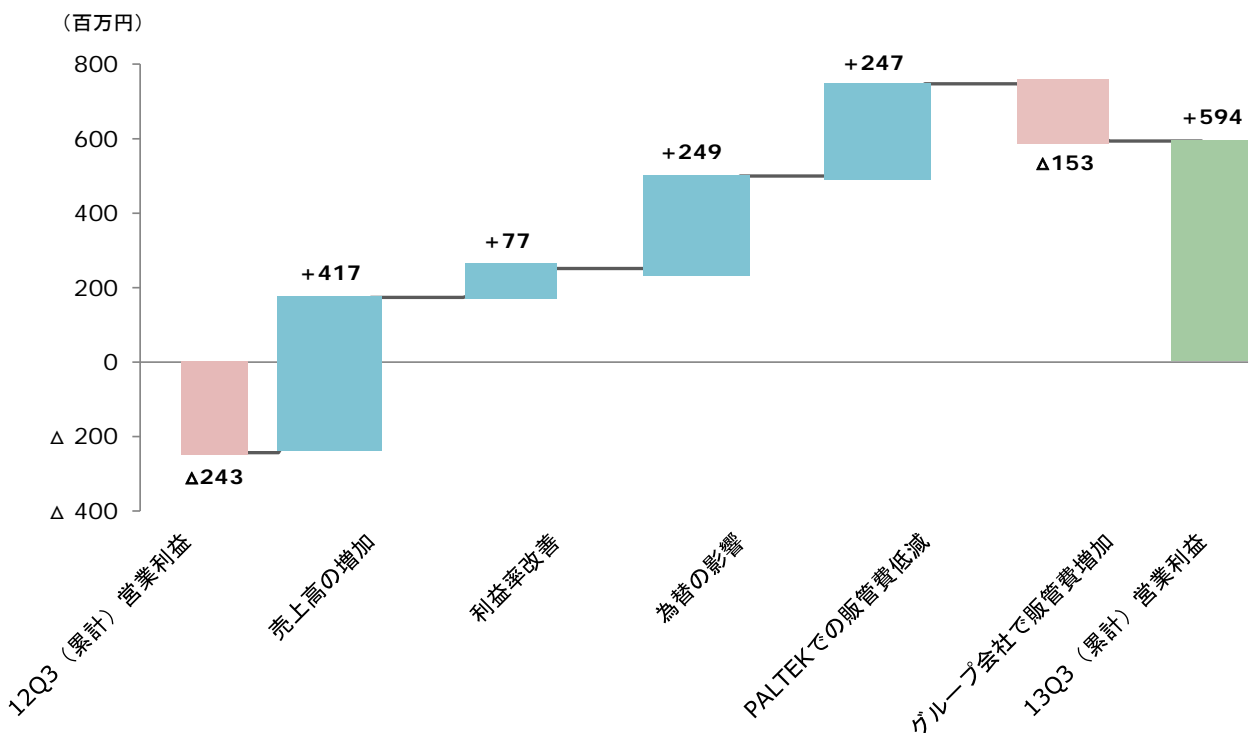
出所:(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**●【表2】2012年12月期下期に実施した収益性向上への取り組み**

取り組み	内容
注力商材の見極め	・収益性の高い製品、今後成長が見込める製品に集約
経営資源の配分見直し	・収益性 成長性の高い製品を中心に経営資源をシフト
PLDを軸とした収益性の更なる向上	・中小企業向け販売の強化 ・LTC製品、高品質電源、高速メモリ等との相乗効果
損益分岐点の引き下げ	・オフィス費用の大幅低減 ・人件費の見直し
業務効率化の促進	・新基幹システムの導入
グループ会社の見直し	・スピナカー・システムズを連結対象外へ ・エクスペローラを子会社化

2013年12月期3Qの営業利益の増減要因分析を【グラフ1】に示した。為替要因には、円安に伴う仕入値引ドル建て債権の評価額の増加による改善が含まれる。連結グループ関連の販管費の増加は、2012年12月期末に連結対象から外れた(株)スピナカー・システムズと2012年7月に新たに連結対象となった(株)エクスペローラ(以下、エクスペローラ)の差額分が増加したためである。

**●【グラフ1】2013年12月期第3四半期 営業利益の増減分析**


出所: (株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

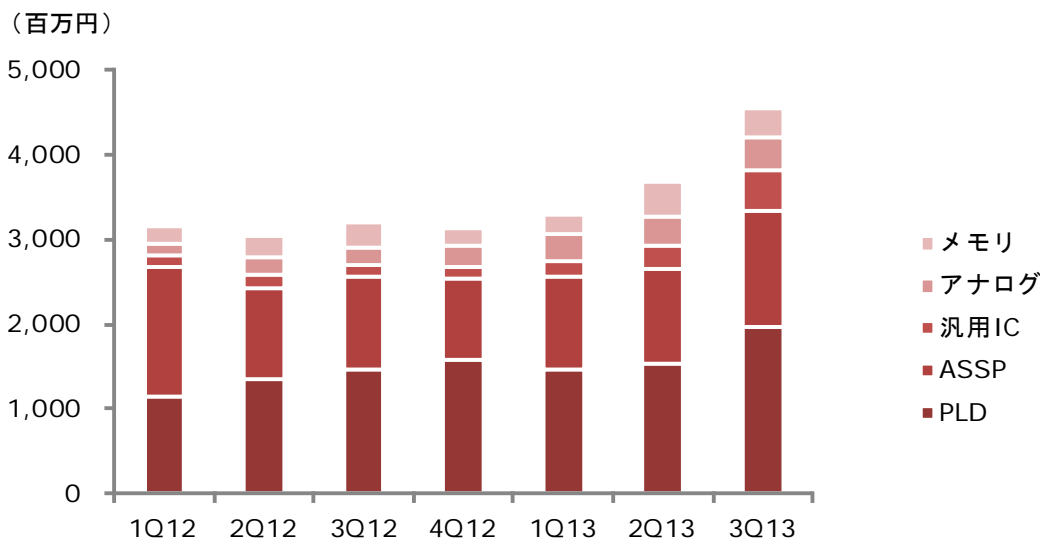
**●【表3】2013年12月期第3四半期累計 事業別売上高**

(百万円)	12/12月期 3Q累計 実績		13/12月期 3Q累計 実績		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
半導体	9,400	95.3%	11,542	92.7%	2,142	22.8%
デザインサービス	376	3.8%	849	6.8%	473	126.0%
その他	89	0.9%	61	0.5%	△ 28	-31.9%
売上高合計	9,866	100.0%	12,453	100.0%	2,587	26.2%

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

【表3】は、2013年12月期3Qの売上高の事業別内訳を示している。PALTEKによれば、半導体事業の売上高が23%増となったのは、医療機器の回復など、産業機器が大幅に改善したことに加え、通信機器が堅調だったためである。デザインサービス事業は、医療機器、放送機器および通信機器向けに加え、新たに加わったエックプローラが寄与したことで堅調な伸びを示した。

【グラフ2】と【グラフ3】では、半導体事業の売上高を製品別と用途別に示している。主力のPLD(主にザイリンク社のFPGAを内蔵したソリューション)が3Qにおいて医療機器、放送機器および計測機器向けで伸びた。特定用途向けIC(ASSP)では、通信インフラと放送機器関連が伸びた。汎用IC(主にNXPセミコンダクター社とマイクロチップ・テクノロジー社のソリューション)がOA機器向けに伸びたことで恩恵を受け、またアナログIC(主にリニア・テクノロジー社のソリューション)は医療機器と産業機器の需要が堅調だったことが寄与した。用途別では、医療機器、計測機器、さらに産業機器が回復したことで急速に拡大した。通信機器は通信インフラ関連需要が伸びて堅調に推移した。

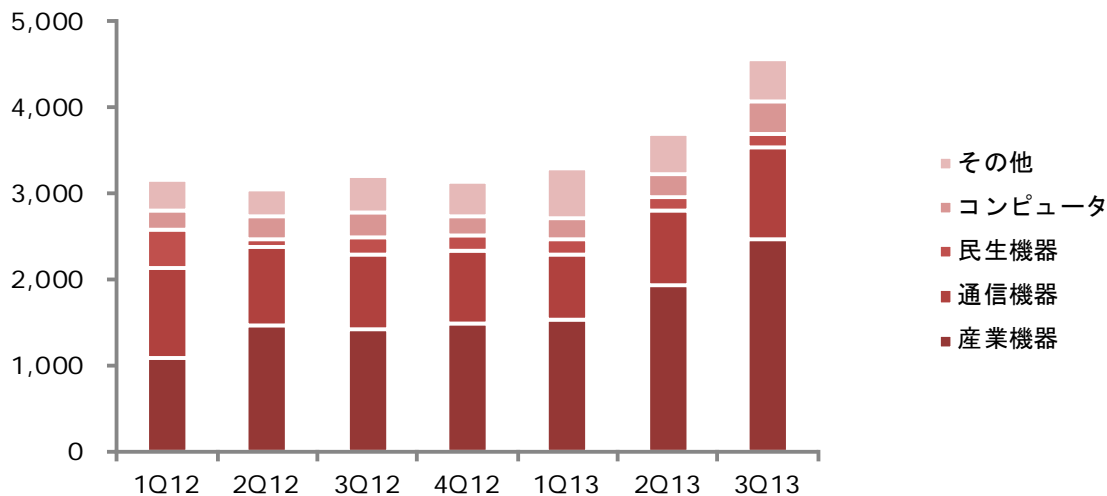
**●【グラフ2】半導体事業 製品別売上構成の四半期推移**


出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**【グラフ3】半導体事業 用途別売上構成の四半期推移**

(百万円)



出所: (株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

【表4】は2013年12月期3Qの財務諸表の概要を示している。資産は主に売上高が急拡大した結果、売掛金、製品在庫および未収金が増えたため、33億2,700万円増加した。負債は買掛金の増加と売上高の増加に伴う買掛金の増加を賄うための短期借入が増えたため増加した。株主資本は純利益の拡大によって増加した。3Q末時点における株主資本比率は64.8%だった。次頁上段の【表5】は2013年12月期3Qのキャッシュ・フローの概要を示している。税引き前利益営業キャッシュ・フローの計上額は売掛金、製品在庫および未収金の増加によりマイナスとなり、現金および現金同等物は16億2,700万円低下した。

**【表4】2013年12月期第3四半期 連結貸借対照表の概要**

(百万円)	12/12月期 期末	13/12月期 3Q末	増減額	主な増減理由
現金及び預金	1,739	1,684	△ 54	
売上債権	3,227	4,279	1,052	売上高が増加したため
商品	1,051	2,788	1,737	売上高増加に合わせ、在庫を調達
その他流動資産	2,617	3,225	607	未収入金が増加したため
固定資産	630	614	△ 16	
<b>資産合計</b>	<b>9,266</b>	<b>12,593</b>	<b>3,327</b>	
仕入債務	570	865	295	仕入が増加したため
短期借入金	-	2,680	2,680	買掛金の支払いに充当するため調達
その他流動負債	547	559	11	
固定負債	258	331	73	
純資産	7,889	8,156	266	
<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,266</b>	<b>12,593</b>	<b>3,327</b>	

出所: (株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**【表5】2013年12月期第3四半期 連結キャッシュ・フローの概要**

(百万円)	12/12月期 3Q累計	13/12月期 3Q累計	増減額	主な増減理由
営業キャッシュ・フロー	1,214	△ 2,739	△ 3,953	税金等調整前四半期純利益を計上した一方で、売上債権及びたな卸資産が増加したこと等により支出
投資キャッシュ・フロー	△ 343	△ 38	305	子会社投資の払戻が発生した一方で、無形固定資産の取得等により支出
財務キャッシュ・フロー	△ 61	2,723	2,784	借入れの実施により収入
現金及び同等物	3,311	1,684	△ 1,627	

出所: (株) PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

**2013年12月期 連結業績予想**

【表6】は、2013年12月期の会社側の業績予想修正の推移を示している。2013年11月7日、PALTEKは通期予想について3度目の上方修正を行った。同社によれば、医療機器と放送機器を含む産業機器向けと通信インフラ関連の需要に牽引されて、PLD、ASSPおよびアナログICの受注高が伸び、売上高予想が6%上昇した。売上増に伴い、利益を上方修正した。また2013年12月9日には、実績が予想を上回ったことを受けて、同社は期末配当金予想を5円から8円へ引き上げた。

**【表6】2013年12月期業績予想修正の推移**

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
2月12日付業績予想[A]	14,500	150	120	72	6.30
4月26日付業績予想[B]	15,350	300	270	155	13.57
増減額[B-A]	850	150	150	83	
増減率(%)	5.9%	100.0%	125.0%	115.3%	

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
4月26日付業績予想[A]	15,350	300	270	155	13.57
7月24日付業績予想[B]	15,800	560	580	340	29.77
増減額[B-A]	450	260	310	185	
増減率(%)	2.9%	86.7%	114.8%	119.4%	

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
7月24日付業績予想[A]	15,800	560	580	340	29.77
11月7日付業績予想[B]	16,800	680	670	390	34.15
増減額[B-A]	1,000	120	90	50	
増減率(%)	6.3%	21.4%	15.5%	14.7%	
ご参考: 12/12月期実績[C]	13,231	△ 317	△ 185	△ 106	△ 9.33
増減額[B-C]	3,569	997	855	496	43.48
前期比	27.0%	-	-	-	

配当金(円 銭)	1Q末	2Q末	3Q末	4Q末	合計
2月12日付業績予想[A]	-	0.00	-	5.00	5.00
12月9日付業績予想[B]	-	-	-	8.00	8.00
増減額[B-A]	-	-	-	3.00	3.00
ご参考: 12/12月期実績	-	0.00	-	5.00	5.00

出所: (株) PALTEKの開示情報をもとに(株)トリアスにて作成

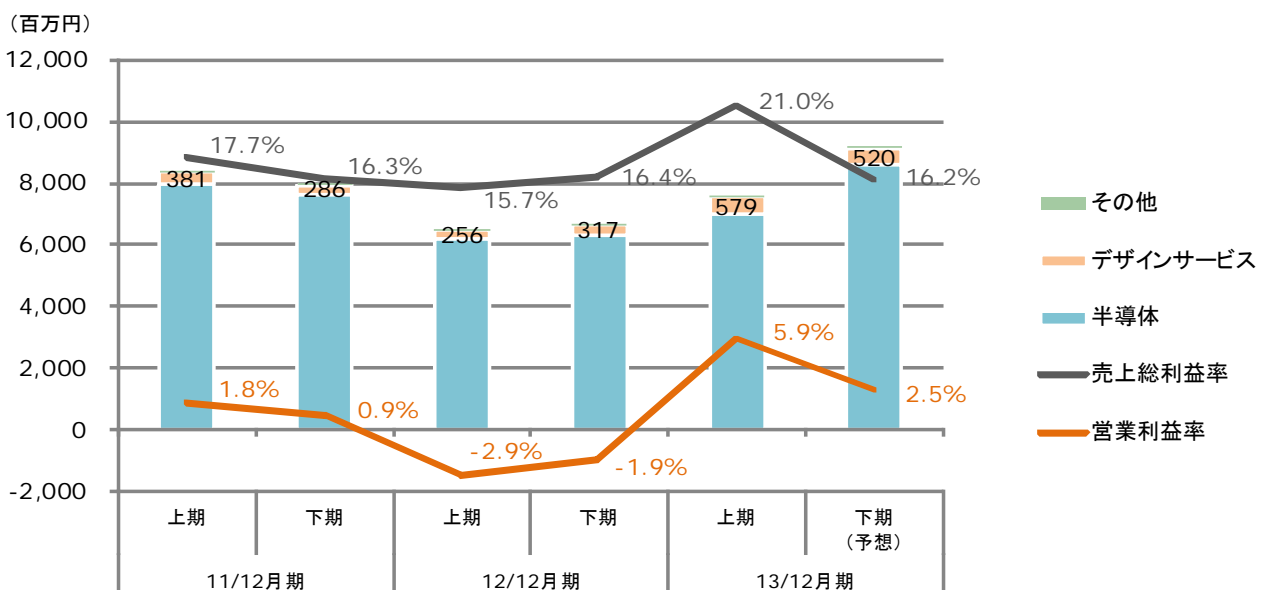
このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**【表 7】 2013年12月期下期・通期の連結業績予想の修正**

連結 (百万円、円、%)	実績 上期	13/12月期 7月24日付修正予想			11月7日付修正予想	
		下期	通期		下期	通期
売上高	7,602	8,197	15,800	9,197	16,800	
売上総利益	1,594	1,355	2,950	1,485	3,080	
売上総利益率	21.0%	16.5%	18.7%	16.2%	18.3%	
販管費	1,148	1,241	2,390	1,251	2,400	
販管费率	15.1%	15.1%	15.1%	13.6%	14.3%	
営業利益	445	114	560	234	680	
営業利益率	5.9%	1.4%	3.5%	2.5%	4.0%	
経常利益	450	130	580	219	670	
四半期純利益	258	81	340	131	390	

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

【表 7】は、下期と通期の会社予想と利益率の推移を示している。この表から読み取れるように、下期の修正売上総利益率は、上期(実績)の21.0%から下期には16.2%へ低下すると予想している。上期の売上総利益率は、急速な円安により仕入値引ドル建て債権の評価額の改善という特殊要因によるものである。会社側の下期の為替予想は上期に比べて目立った変化は見られず、下期の会社予想ではこのドル建ての評価額の改善を見込んでいない。したがって、下期の売上総利益率は通常年の下期の売上総利益率に並ぶ水準となっている。より重要な点は、PALTEKが販管費の厳格な管理姿勢を維持していることであり、下期の修正予想売上高に占める販管費比率の低下により、下期の営業利益率が前回予想の1.4%から2.5%へ上昇するとみていることである。【グラフ 4】は、半期毎の売上総利益率と営業利益率を示している。

**●【グラフ 4】 事業別業績の半期推移**


出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

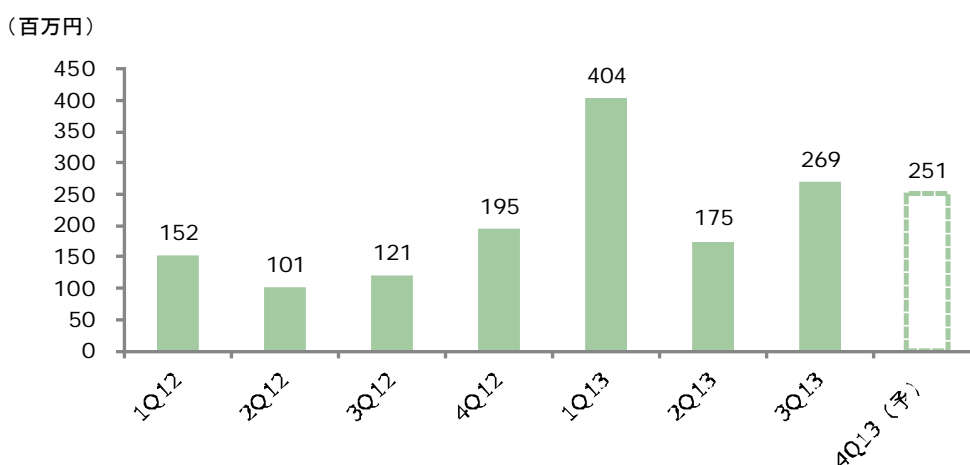
既に述べたように、PALTEK の経営陣は、利益率の高いデザインサービスに対する経営資源の投資配分を高めている。この事業には、設計受託、ODM/EMS/OEM、社内の製品開発と販売が含まれる。PALTEK は、グループ売上高の 60%以上が、日本の研究開発で最先端にある大手エレクトロニクス・メーカーや精密機器メーカー向けであることを勘案し、2007 年にデザインサービス事業を開始した。デザインサービス事業は、とりわけ PALTEK が専門性の高いエンジニアのアウトソーシングを請け負うことから、エレクトロニクス関連メーカーにおける激しい競争環境を補完する役割を担っている。PALTEK 全体の収益性のカギを握るのは、30～40%という高水準のデザインサービス事業の売上総利益率である。この水準は、主力の半導体事業の売上総利益率の平均水準 17%のほぼ倍に相当する。

PALTEK は、北海道を拠点とするエクスプローラの全株式を 2012 年 7 月 26 日に取得した。エクスプローラは、PALTEK よりも 10 年遅れて 1992 年に設立され、DPS(デジタル信号プロセッサ)と FPGA(フィールドプログラム可能ゲートアレイ)の設計で堅実な実績を持ち、画像と音声処理の高い技術を持つことで知られている。

2013 年 5 月 16 日、PALTEK は、日本の NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「イノベーション実用化ベンチャー支援事業」として、エクスプローラが提案していた「レート制御機能搭載 4K 対応 H.265/HEVC コーデック装置の開発」が採択されたと発表した。この H.265 は、インターネット利用ビデオの 80%超を占める H.264(MPEG-4)の後継基準として、ITU(国際電気通信連合)が 2013 年 1 月に採用したばかりだった。H.265 は超高精細度テレビ向けの仕様であり、優れたデータ圧縮技術(ビットレートを 50%軽減)が用い、高精細画像を生み出すことができる。最新状況を後述のトピック・セクションで説明したい。

【グラフ 5】は、デザインサービス事業売上高の四半期推移を示している。PALTEK によれば、2013 年 12 月期 1Q 売上高の急激な拡大は、通信関連の特殊な大型案件があったからで、一過性の可能性が高いとのことだ。とはいうものの、事業全体は堅調な成長傾向にあり、高い利益率のおかげで全体も底堅い収益性を実現している。

### ●【グラフ 5】デザインサービス事業 売上高の四半期推移



出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**トピック： デザインサービス事業における本格的な社内製品開発**

エクスプローラの 4K 対応 H.265/HEVC コーデック装置の実用化開発案が、NEDO の支援プロジェクトとして採択された。2013 年 12 月 4 日、PALTEK は矢吹社長による「4K が拓く未来」と題する事業説明会を開催した。この説明会では、1) 4K 市場の概要、2) H.265/HEVC 方式の説明とその用途の説明、さらに 3) 4K 市場開発に向けての PALTEK グループの取組みについて説明があった。この事業説明会の主要点を以下にまとめる：

**概要**

- 放送サービスの高度化は、国家成長戦略の一つに位置付けられる。
- 国としての国際競争力を確保することにより、日本は技術と製品の輸出を目指す。
- 4K/8K の超高解像度画像は、通信トラフィックに大きな影響を及ぼすと考えられる。
- PALTEK グループは、この問題を回避するために製品開発を進めている。

説明会の冒頭で、PALTEK は、4K の普及に関する意見は様々で、斑模様であるとの見方を示した。前向きな見方としては、1) テレビを新たに購入する際には、シアター品位の高解像度が得られる超高精細機能へとアップグレードされると考えられること、2) 4K は国策のひとつであり、国民から受け入れられるとみられること、さらに 3) 東京が 2020 年のオリンピック開催地に決まったことで普及が加速するみられることなどが挙げられる。否定的な見方は、1) フル HD 解像度で十分であり、4K テレビは価格が高過ぎること、2) 4K のコンテンツがまだ揃っておらず、結局 3D テレビのこの舞となりかねないこと、3) 消費者は地上デジタルテレビに更新したばかりであり、目先で新しいテレビを必要としていないこと、さらに 4) ローカル放送局は地上デジタル関連の設備投資で既に疲弊しており、4K 関連の追加投資負担には耐えられないとみられることなどである。

総務省の「ICT 成長戦略会議」は、3 つの主要政策課題を公表している。

暮らしを変える [社会実装]	資源問題の解決(鉱物・石油資源、水、食糧、エネルギー問題等への対処) 災害に強い情報通信インフラの強靱化(G 空間情報の活用等による防災・減災対策) ICT を活用した街づくり(東北メディカルメガバンク計画) 超高齢化社会への対応
新しいモノをつくる [新産業創出]	放送コンテンツの海外展開 <b>放送サービスの高度化(4K/8K/(双方向性)スマートテレビ)</b> ITC を活用した「コト」づくり(高付加価値のサービス産業育成) サイバーセキュリティの強化
世界に貢献する [研究開発戦略]	イノベーションの利用を強化(幹細胞による再生医療への貢献) ICT の国際標準化を確実なものにする

出所：総務省

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。



**●【表 8】日本における 4K/8K の普及推進に関するロードマップ**

» 2014 年	» 2016 年	» 2020 年
4K 試験放送の開始 (124°/128°CS、CATV)	4K 放送の拡大 (110°CS) 8K 試験放送の開始 スマートテレビの放送サービスが拡大	4K / 8K 放送サービスが BS へ拡大 スマートテレビの放送サービスが拡大
ブラジルの W 杯サッカー戦	リオデジャネイロ・オリンピック	東京オリンピック

出所：総務省、(株)PALTEK 資料

4K の超高精細画像放送に関する日本と海外の最近の動向は以下のとおりである：

**日本**

- 2012 年 7 月：NHK が最新のスーパーハイビジョン機材 (8K) を用いてロンドン・オリンピックを録画し、公共視聴を実施。
- 2012 年 10 月、2013 年 3 月：SKY パーフェクト JSAT がシアター・スクリーン向けに Jリーグ・サッカーの試合を 4K で衛星中継した。
- 2013 年 6 月：次世代放送推進フォーラムである NexTV-F が設立された。この組織は、放送局、通信会社、放送機器メーカーなど 21 社で構成される。同フォーラムでは、4K/8K 放送、スマートテレビの放送サービスを早期に実現するため、送受信の基準と仕様に関して、検討、評価、試験的放送を行う。
- 2013 年 10 月：(株)PFU が日本遠隔医療協会の第 17 回年次学会において、外科手術の中継放送に用いた 4K 高精細ビデオ用の送信システムを展示紹介した。
- 2013 年 11 月：NexTV-F と SKY パーフェクト JSAT が、アリスの武道館コンサートを映画館向けに 4K で衛星伝送した。国際放送機器展”Inter BEE”が幕張メッセで開催され、最新の 4K 機器を出品展示した。

**韓国**

- 2009 年 5 月：韓国版 FCC (韓国通信委員会) は、超高精細度テレビ放送向けとして 5 年以上にわたり 1.5 兆ウォン (約 1,500 億円) の研究開発費を承認した。
- 2012 年 10 月：BS を用いて、4K の試験放送を開始。
- 2013 年 7 月：一般家庭で利用されている CATV を使って 4K の試験放送を開始。
- 韓国の CATV 放送協会は、2017 年までに 4K 放送関連の設備投資に 7,200 億ウォン (約 700 億円) を投資する計画である。
- 2014～15 年に 4K で商業向け放送サービスを開始し、2018 年には 8K で開始する。

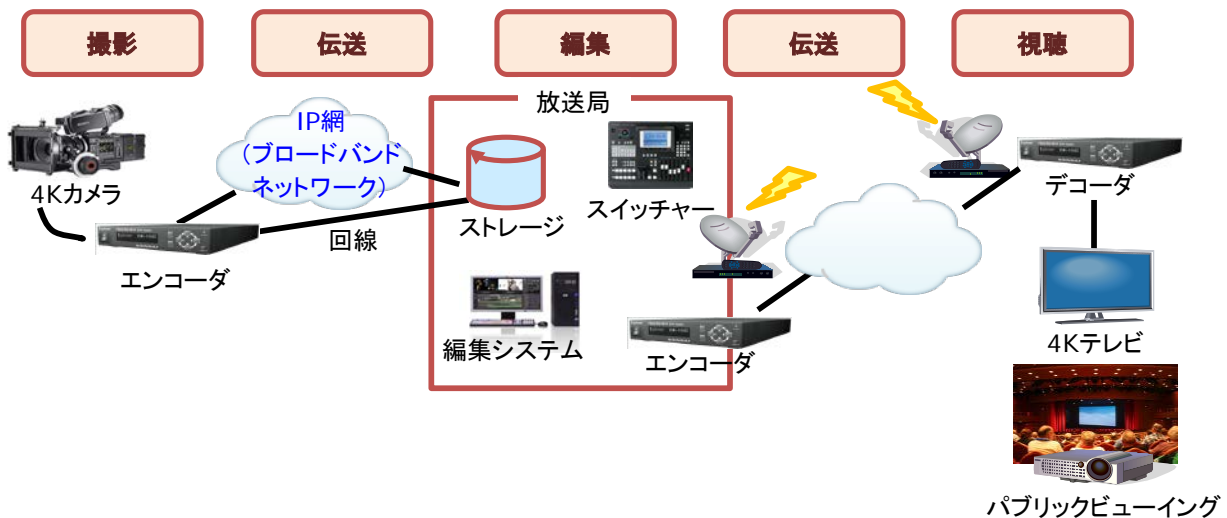
**欧州**

- 2008 年：BBC (英国) と RAI (イタリア) が NHK と共同で、スーパーハイビジョン放送向けの放送システムと高速 IP 伝送システムを開発した。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

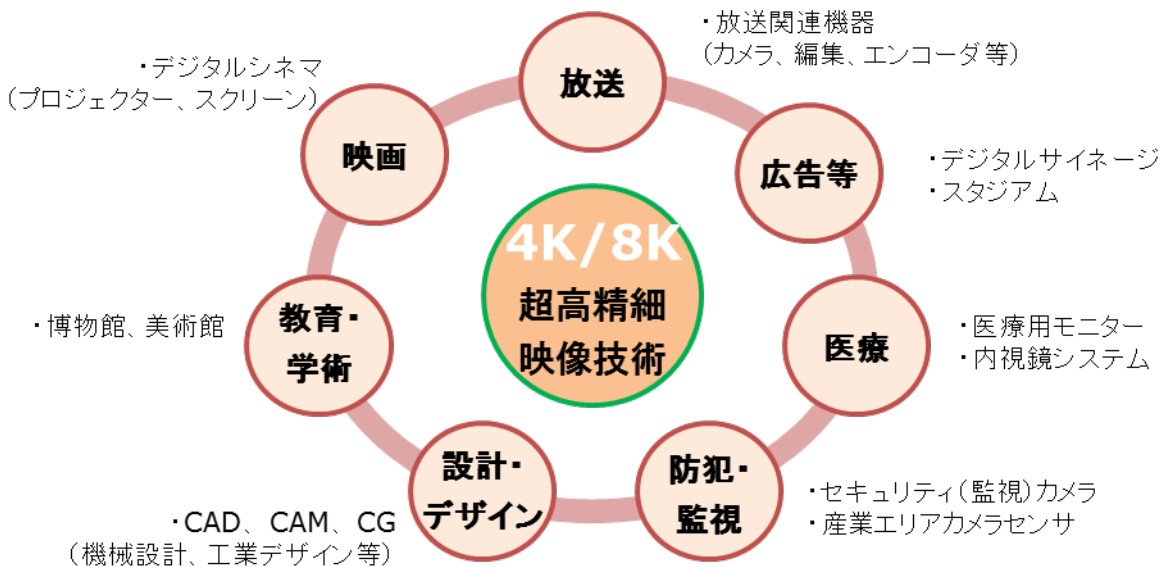
- 2012年4月：フランスの産学共同プロジェクト“4EVER”が、HEVCを用いて4K関連の共同研究開発を開始。
- 2013年6月：全仏オープンを試験中継放送にATEME(フランス)のH.265伝送を用いたエンコーディング技術が採用され、公共視聴が行われた。

●【グラフ6】4K放送 撮影から視聴の流れ



出所: PALTEK グループ

●【グラフ7】4K/8K 技術の展開イメージ



出所: 総務省「有料放送の高画質化・高度化等に関する調査研究」(平成 25 年)

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

4K フォーマットの解像度は 8M ピクセル(画素)であり、8K フォーマットは 33M ピクセルである。4K はフル HD より画素数が 4 倍多く、8K は 16 倍多い。2013 年 1 月、ITU は H.264 の後継コーディング方式として H.265/HEVC を採用した。HEVC(高効率動画圧縮符号化規格)は圧縮率が MPEG-4 のほぼ 4 倍であり、H.264 のほぼ 2 倍である。【グラフ 8】は、データトラフィックが急増する中で、4K による対応課題を取り上げた。米国ネットワークテクノロジー企業の大手 Cisco Systems, Inc.(シスコ)は、動画が 2017 年末までにモバイル関連データトラフィックの 3 分 2 を占めると予測している。H.265/HEVC の圧縮符号化装置の開発が喫緊の課題である。

●【グラフ 8】 4K の急速なトラフィック増加に伴う問題:全世界のモバイルデータトラフィック予想

- 通信トラフィックが、スマートフォンの普及に伴って急速に増加している。
- さらに、4K 動画はフル HD に比べ画素数が 4 倍多い 8M ピクセルであるため、トラフィックに及ぼす影響が大きいとみられる。



出所: CISCO VNI Mobile 2013

●【グラフ 9】 エクスプローラの製品例

中継放送機器

移動中継車から放送局へ中継放送の伝送を行う際には、コーデック装置が必ず必要になる。



監視カメラ

データを遠隔地からリアルタイムで伝送するためには、高パフォーマンス性能が求められる。

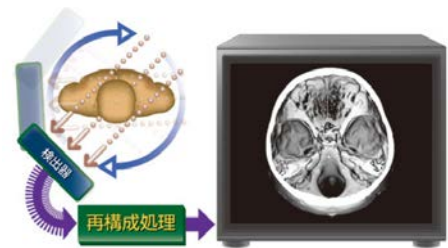


このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

## 医療機器

先進エンジンボードは、CT スキャナや MRI で撮影した画像を高速処理するための画像処理アルゴリズムを搭載し、最終画像を提供する。

出所: PALTEK グループ



PALTEK の半導体事業における 4K 市場関連の取り組みとして、4K 放送機器向けの FPGA/ASSP 提案や技術支援の提供、さらに次世代医療機器開発のための FPGA/ASSP 提案を行っている。また、デザインサービス事業では、次世代医療機器の開発に向けて設計開発を受託している。

エクスプローラのデザインサービス事業では、先に述べたようにレート制御機能を搭載した 4K 対応 H.265 コーデック装置を開発している。この自社製品の開発は PALTEK グループにとって収益性を高めるために重要な意味をもつ。エクスプローラは既に H.264 コーデック装置の開発で実績があるが、今回 NEDO の助成金を得て、技術的蓄積をベースに 4K 対応 H.265 コーデック装置を開発している。NEDO の支援提供は 2013 年 4 月 30 日から 2014 年 2 月 20 日まで続き、研究開発費用の 3 分の 2 が助成される。同社は、2013 年 11 月の Inter BEE (国際放送機器展) にプロトタイプを出品展示しており、2014 年 4 月からの販売開始を目指している。中継放送にはエンコーダとデコーダが利用され、デコーダは CATV 上にボックス設置され (4K の試験放送は 2014 年夏に開始される)、将来的には先進遠隔医療システムやハイエンドの監視システム等の用途が見込まれることから、潜在成長力は極めて大きいと考えられる。📺

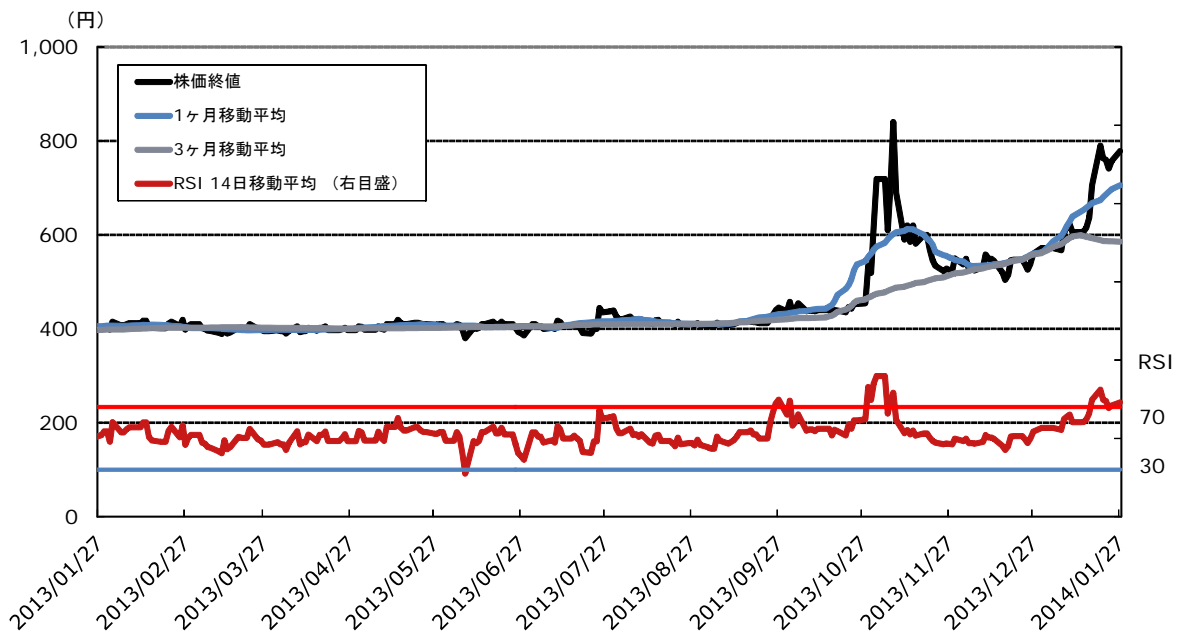
このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**ご参考**
**● 連結主要指標と業績の推移**

発行済み株式数(株)	2013.9月	11,849,899	総資産(百万円)	2013.9月	12,593
うち自己株式数(株)	2013.9月	430,917	自己資本(百万円)	2013.9月	8,156
時価総額(百万円)	2014.1.27	9,219	有利子負債(百万円)	2013.9月	2,680
1株当たり純資産(円)	2012.12月	690.35	自己資本比率(%)	2013.9月	64.8
ROE(%)	2012.12月	-1.3	有利子負債比率(%)	2013.9月	32.9
ROA(%)	2012.12月	-1.1	フリーキャッシュフロー(百万円)	2013.6月	△162
PER(倍)	2013.12月予	22.8	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	2013.6月	32.9	ROA=当期純利益÷期末総資産		
PBR(倍)	2012.12月	1.1	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2014.1.27	778	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数(株)	2014.1.27	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	2014.1.27	43,560	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF		

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株益(円)	1株配(円)
2008年12月期	20,726	131	286	59	5.07	10.00
2009年12月期	14,762	△182	△103	△60	△5.17	5.00
2010年12月期	16,499	322	448	238	20.84	7.00
2011年12月期	16,367	221	198	48	4.22	5.00
2012年12月期	13,231	△317	△185	△106	△9.33	5.00
2013年12月期上期	7,602	445	450	258	22.63	-
2013年12月期(予想)	16,800	680	670	390	34.15	8.00

注: 2013年12月期業績予想は2013年11月7日発表の会社予想、期末配当金は2013年12月9日付会社予想。

**● 株価チャートとRSI**


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。